



子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)

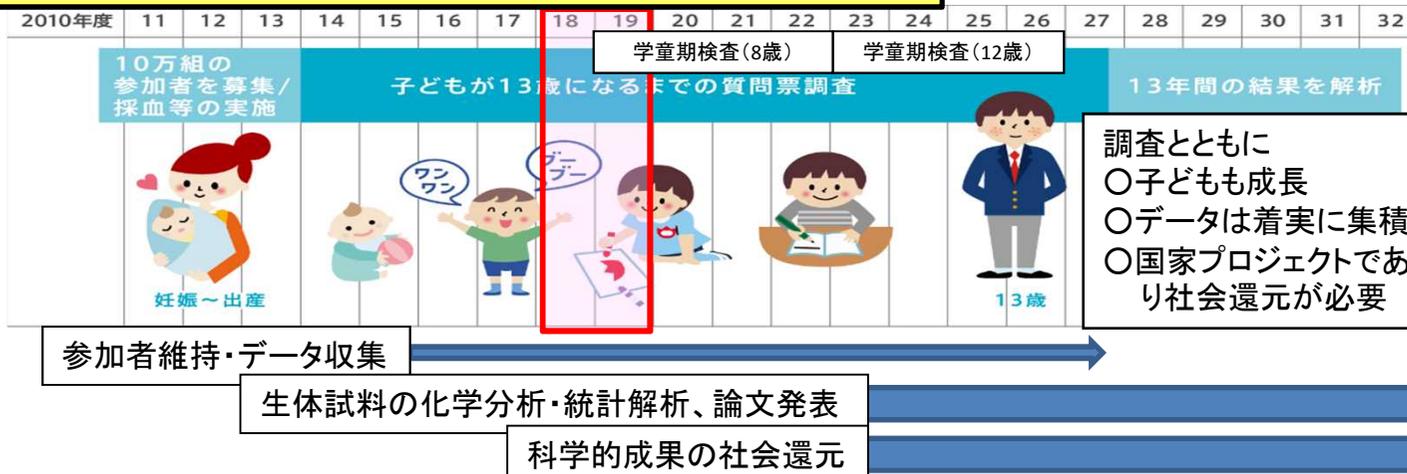
2019年度要求額
6,583百万円(5,054百万円)

事業内容 化学物質が子供の健康に与える影響を明らかにするための長期的・大規模な追跡調査

<特徴> ①10万組の親子が参加、②約450万検体の血液、尿等を計画的に分析、
③2010年代の化学物質の実態を反映したものとしては世界に例のないもの

2016年のG7富山環境大臣会合において、高く評価され、引き続き実施することとされている。

エコチル調査は8年目を迎え「新たなフェーズ」へ



調査内容

- 妊娠期・学童期に生体試料の採取
- 質問票調査(半年ごと)
- 5千人に対する詳細調査(環境測定、医学的検査等)

- 40本の学術論文が掲載(平成30年7月時点)
- 論文執筆の進捗は順調
- 今後加速化の時期

「新たなフェーズ」における取組(2019年度)

1. 「子どもの成長」(先頭集団は小学生へ)
参加者維持・データ収集 ⇒ 子どもの成長に合わせた「**新たなデータを集積(学童期検査)**」
2. 「研究の加速」(参加者維持・データ収集から本格的に論文発表する時期へ)
分析・解析から論文発表 ⇒ 研究を加速・推進するために、「**化学分析の計画的実施**」
3. 「科学的成果の社会還元」 ⇒ 「**地域の子育て世代との対話**」

「地域の子育て世代との対話」

- 「子育て世代」同士や医療、行政、科学学習等の関係者が化学物質のリスクについて対話し、寄り添い支え合う環境
- 正しくリスクをさけ、化学物質のリスクと上手に向き合う社会へ(パニックでなく、合理的な行動へ。)

「化学物質のリスクと上手に向き合う子育て環境づくり」(地域循環共生圏)

安全・安心な子育て環境の実現

政策への反映(EBPM) ○化学物質管理施策への活用(化学物質の製造、輸入、使用に対する規制的措施、自主的取組の促進等)